

だい きやまと し たぶん かきょうせいかいぎ だい かいかい きろく ようやく
第4期大和市多文化共生会議 第15回会議録(要約)

にちじ ねん がつ か ど
日時: 2017年9月9日(土)14:00~17:00

ばしょ やまと し やくしよぶんちようしゃ かいかい ぎしつ
場所: 大和市役所分庁舎2階会議室

しゅっせき いん いしま い の みさと しようじ せ やま り
出席: 委員(石間フロルデリサ、猪野美里、東海林まりえ、瀬谷麻里、ハゲイ パトリシ
ア、府川貴恒) / 大和市国際・男女共同参画課(伊藤) / 公益財団法人大和
市国際化協会(酒井、田中、小西、石川) 以上 11名

けっせき いん いとうもとみ くする み こ しらとりせつろう たのいさいな けい
欠席: 委員(伊藤素美、ウプレティ マトリカ、楠瑠美子、白鳥節郎、田野井咲奈)(敬
称略)

1 いん かんそう かい う
1 委員からの感想(ランチ会を受けて)

いん みちか ひと こえ がいこくじん にほんじん も
委員がそれぞれ身近な人に声をかけて、外国人、日本人がつながりを持つきっかけを
つくることのできるような場として、参加者が食事をもち寄るランチ会を会議前に実施した。
めい さんかしゃ きようりよく かいとうけつ か じむきよく しようかい
6名の参加者にアンケートの協力をいただき、回答結果を事務局から紹介した。(アンケ
ート項目は以下の通り)

ねんれい しゅっしん にちじょうてき がいこくじん にほんじん つ あ ひんど だれ
(1)年齢、(2)出身・ルーツ、(3)日常的な外国人 / 日本人との付き合い頻度、(4)誰
に誘われたか、(5)外国人 / 日本人がお互いに交流・接触できなかった / しなかったの
はどうしてか、(6)その他の感想

さんかしゃ かんそう
(参加者の感想)

- フィリピン 30代: Language Barrier 言葉の壁がある。日本語の言葉たいへん。
- 日本40代: 自分たちがもっと交流の機会をつくつたらいい。それが外国人の日本語教
育に関わる私たちのミッションと思う。今までは外国人が抱える課題は分からなかつ
たが、今日少し知ることができた。まずは知ることから始まると思った。
- 日本40代: 日本人の多くは外国人に慣れていないし、接点がないのでどうしたらいい
かわからない。自分が積極的でなければこのようなランチ会の情報を手に入れること
ができないが、こういう場があるといい。保育園などで宣伝してもいいのでは。
- 日本50代: 今までは交流の機会がなかった。他の人にもこういう機会を教えてあげたい。
誰か知人がいれば行きやすいが、知人がいなければ行きにくい。
- 日本70代: こういう場があることが分からなかった。こういう場があることがわかれば、
来たい人は他にもいるのでは。私にできることがあるのなら、協力したいと思った。自
分としても何かしたいと思っている。

- 日本30代:なかなか機会が限られているので、こういう場がもっといろいろなところできがら行くようになるといい。友だちを連れて来るのはいいアイデアと思う。市役所のロビーとかでもできるといい。周りが外国人だらけだと日本人は行きにくいのではない。今回のように日本人が多いと日本人は参加しやすいかも。
- その他にも今回は参加できなかったが、このような機会があれば参加したいという方もいた。

(委員の感想)

- ランチ会をやってみようという提案の発端は、外国人に情報がうまく伝わらないことあった。今日の試みがダメだったわけではないが、ランチ会の目的がはっきりしていなかった。何かしらメリットになるものがなければ、外国人は来てくれない。継続しないと意味がないので、行ってみようと思わせるものがないと続いていかない。ランチ会の目的をみんなで共有して、それに理解してくれる日本人も呼び込まないといけない。ランチ会自体はとても楽しい時間になった。
- 食べ物があったのは効果的で良かった。各国の料理や海外旅行の経験は話題の一つにもなり、外国人とのコミュニケーションのきっかけにもなる。外国人の参加者が少なかったので、参加しやすい日時の設定も大切なのでは。お酒が入った食事会であれば、もっとコミュニケーションが進むと思う。
- 今回誘う対象は普段外国人と接触を持たない人だと思って声かけしたが、土曜日だと都合が悪い人が多かった。ランチ会の目的がはっきりしていなかったので、声をかけにくかった。わたしはそうでもないが、他の人に声をかけてみると外国人と接することにためらいを感じていることがわかった。わたしは何とも思わないが、以前から外国人と接することが多いため、慣れているのかもしれない。外国人も(日本人に対する)慣れが必要なかもしれないと思った。
- 目的がはっきりしていなかったので、誘いづらかった。テーマがはっきりしていれば、共通点がある人との出会いがあるかもしれないと思って参加しやすくなるのではないかな。ただのランチ会と言われると、行かなくてもいいかなと思ったりすると思う。
- お子様連れの方はあまり話ができなかったようなので何か対応できたら良かったのかもしれない。
- 料理を含めたランチ会は定期的にやった方がお互いの距離が縮まっているのではないかな。ただし、話し相手が偏ったりするので、その点は一定時間で司会からチェンジするなど進行する上での工夫が必要。

- ランチ会をすることで、わたしたち以外にも多文化共生に関して新しい意見を言ってくれるのではないかと考えた。ランチ会の目的がはっきりしていなかったかもしれないが、長く住んでいる外国人でもなかなか日本人との接触がないので、いい機会だと思う。外国人も日本人もお互いに心を開かないとコミュニケーションがとれない。今日の参加者は日本語が上手ではないけれど、コミュニケーションを取りたがっている人だった。この会議はもうすぐ終わりだが、また時間が取れば、こういう機会をつくりたい。
- 今回のようなランチ会は料理持ち寄りなので、定期的にやるとなると、参加者にとっては負担感があるかもしれない。今日、外国人のゲストは1名だけだったが、みなさんはどれくらい話ができただろうか。交流という点で考えてみると、外国人のゲストと直接つながって、次回も引き続き参加してもらうところまではいかなかったと思う。また参加してもらえるにはどうしたらいいか考えてみたい。
- ランチ会の目的をどう設定して、継続性を持たせるか。ランチ会は参加しやすいと思っていたが、外国人の参加者は少なかった。
- 参加者の一人と携帯電話の番号を交換した。スペイン語と日本語を使ってこれからいい関係がつけれると思う。次の機会には、もっと参加者が増えたらいいと思った。

2 全体の意見交換

外国人の参加者が少なかった

- 周りの方にはどのように声をかけたのだろうか。外国人に声をかけて誘っても来なかった原因は何だろうか。
- 日本語が話せないので無理だという返答があった。大丈夫だよと言っても日本語は自信がないという理由で断られた。
- 今日のランチ会はたくさん来ると思ったのであまり声をかけなかった。「日本人と交流しよう」と言って声をかけた。友達になりたい、日本人と交流したいと思っている外国人はたくさんいる。
- 平日がいいのか、土日がいいのか。私の場合だと、月曜から金曜は仕事をしており、日曜は教会にいくので、やはり土曜日の方が都合がいい。
- 例えばフルタイムで働いている人と子育て中の人と一緒にいることはないと思うが、やはり子育て中の人同士でなら有意義な意見交換ができるようになるのでは。そうした属性が同じ人ならいいかもしれない。
- フルタイムで働く男性は地域の行事などには参加しにくいですが、そこにもスポットをあててほしいという思いはある。

- 日本人ママは、平日はいつも忙しいのでせめて週末の土日くらいは夫や子どもを含めた家族みんなでごはんを食べたいという方が多かった。シニア世代(高齢者)は割と暇な人が多いので時間がとれると思う。
- 例えばだが、シニアと子育て中の外国人ママとは何か接点があるのだろうか…。
- 日本人も外国人に対する慣れが必要で、外国人も日本人(とのコミュニケーション)に慣れていないのではないかと。外国人に慣れていないシニア世代であっても、日本語を教えて下さいと頼めば絶対教えてくれる。
- とはいえ、支援する人と支援される人の関係性がずっと続いて変わらないようであれば悲しい気がする。
- ボランティア養成講座や日本語教室ではたくさんのシニア世代が活躍しているので、そうした人を対象にしたらどうか。
- 日本語教室でランチ会をすると日本語を教えたいという属性の人しか集まらないが、この会議でやれば、いろんな属性の人が集まることができると思う。そこが日本語教室でやる交流会との違いになるのではないかと。外国人にしたら、子育てに関する情報だとか、いろんなチャンネルを持った日本人と会うことができる。
- 今日の日本人の参加者は建物の外で待っていて、この場所に入りづらかったようだ。外国人もそうだが、やはり知っている人と一緒にないと入りづらい。
- 建物の外にあるオープンスペースでやった方がいいぐらいかもしれない。バーベキューをやるにしてもお金がかかってしまうが。
- 自分たちの負担が軽くなるように、ランチ会ではなく、お茶会にすればどうか。

外国人市民サミットでの話

- 先日開催の外国人市民サミットで、ある外国人と話したことがあったが、気兼ねなくいろいろな話ができる友だちがほしいようだった。だから、サミットのような機会があるといいと話していた。そのような集まりが定期的にあることが大事なのではないか。
- サミットについて補足しておく、今回のテーマは「多様性を生かしたまちづくり」で、外国人の参加者がグループに分かれ「日本で生活していて、自分が受け入れられていないと感じた経験」を語った。外国人が主役のイベントだったが、市長や市役所の幹部も出席していた。いい機会なのだが、多くの人はサミットをやっていることすら知らないと思う。
- どうやってランチ会をお知らせするか、またランチ会の目的をどうやって伝えるか、その辺を考える必要があると思う。

○常設であれば良いかもしれないが、継続できるかどうかなのかな。3か月に1回だと少ないので、やはり月1回くらいのペースになるのかも。

○年のせいなのか分からないが、メモを書いていないと忘れてしまう。声かけする人は、口で案内するだけでなく、紙媒体を使って、説明しながらそれを渡さないと相手にうまく伝わらないし、覚えてくれない。多言語のちらしを作成すれば、じわじわ広まるかもしれないが。

○教会の外国人グループに声をかければ、たくさんの方が参加してくれると思う。国際交流フェスティバルの実行委員の方などのキーパーソンに声をかけるといい。

○どうしても同じ国の人たちの集まりの方が居心地がいいはず。そうした居場所ではなく、こちらのランチ会に来てもらうにはどうしたらいいか。

○同じ国だけでなく、いろんな国をミックスしたらいいのでは。日本語に加え、色々な課題を抱えている。

ひとりでは解決できない

○サミットのように外国人だからこそ抱く感情を共有できる場は貴重だと思う。日常生活ではなかなか言えないことなのだと思う。

○サミットは日本人が少ない場だったために日本人に都合が悪いことだって言えたのではないかと想像する。

○以前のサミットで外国人の抱える課題は日本人と変わらないと言われてしまったことがあるが、そんなことはない。外国人は秘密にすることなく、自分の気持ちはきちんと伝えるので、市役所に行くときは、自分の気持ちはきちんと話すようにと外国人にはいつも話している。終わってから、これどうするどうすると私に言われてもどうすることもできない。先日税金の請求書が来てパニックになった外国人から相談があった。本人だけでは解決できなかったため、分納相談に一緒に行ったことがあった。市役所のスタッフはみんなやさしいので、それは本当にありがたい。

○やはり手伝ってくれる人がいないと市役所に来ることもむずかしい。

日本語の壁

○交流する機会がないという話があったが、わたしは割とあるのではないかと思っている。たとえば、日本語教室とか。外国人の中には日本人の友達が欲しい人がいる。何らかの理由でなかなか交流の機会に出てこないから、その課題を解決しないと交流することは進まない。

○どんなプログラムであっても外国人に声をかけると「あなたは行くの」と聞かれる。わたしが行くと言えば、「じゃあ私も」と返事をしてくれることが多い。外国人は一人では行かない。わたしでなくても、誰か知り合いがいたら外国人は来てくれる。誰も知っている人がいなければ外国人は来ない。

○まずは日本語の壁があると思うが、日本語でのコミュニケーションについて解決する方法は何かあるのだろうか。

○ペルー人であれば、ランチ会のごちそうがあれば参加するのではないかと思う。

○それでも来てくれたとしても顔見知り同士で楽しんで終われば何も解決できない。

○それは日本人も外国人も同じで、グループの中だけで楽しんで終わりになってしまう。

○日本人の方からやさしい言葉で話しかければ、日本語が苦手な外国人であっても日本語でのコミュニケーションに自信を持てるのではないか。

○この人と話しても大丈夫だと安心感を得るまでには時間がかかりそうだ。

○その点については、ランチ会を企画する私たちの問題でもあって、来てくれた参加者の方々に積極的に声をかけていく必要がある。

支援を受ける外国人との関係性

○外国人はどのような日本人とのつながりを求めているのだろうか。今日はある参加者と連絡先を交換したが、正直言ってどんなことをしてあげたらいいのかわからない。

○私の場合、自宅に届く手紙がわからないなど何か困ったことがあっても自分から動くように伝えている。私から出向いて助けてあげたりはしない。子どもにアイスクリームをあげるようなことはしたくない。

○その外国人を例にすると、困ったときには日本語教室の先生、会社の人などを頼りにしているようだ。LINEでの連絡は1対1でのやり取りになる。自分が抱えている問題を他人に知られたくないという思いもあるのでグループではやりづらい。本人がどう思うのかわからないが、わたしとしてはプライバシーがあると思うのであまり多くの人には知らせたくない。

○代わりに解決してくれる人は現れるのだろうか。シェアする人がいないと解決が遠のくのではないだろうか。何かを助けてくれる人と友だちとは違う存在なのではないかという気がする。

○ある方の事例だが、懇談会など学校の行事にはいつも参加したいと思っている外国人がいる。日本語はそこまで上手ではなく、助言してくれる友人もいないが、それでも参加したいようだ。そうした懇談会のときに、先生が何を話しているのか教えるサポート

- 程度であれば、外国語ができない日本人でもできるのではないかな。
- 他にも遠足に必要なものとか、先生から渡されたお知らせにはこんなことが書いてあるとかを教えてあげたり、LINEで共有できたりするかもしれない。
 - 変な話だが、その方はわたししか信頼していない。同じ国の人でも、この人はちょっと無理、とか人付き合いのむずかしさがあるみたい。例えば、ムスリムの人だと、あの人はああいう口紅をしているからダメという理由で付き合い合う人を見極めていろいろいるらしい。
 - 相談窓口であれば、ある意味人間関係がなく、ドライだからこそ相談しやすいのではないかなと思う。
 - 課題を解決してくれる人だったり、助けてあげる日本人だったり保護者のような位置づけになると、外国人との上下関係が生まれてしまう。日本人は言葉が分からないと思っただけでやさしく対応しているつもりでも、外国人の中には子ども扱いされていると感じる人だっているのではないかな。
 - みんな大人。外国人は自分でやりたい、興味があったりするけれど、自分一人で行けるかどうか、自信がないのではないかな。わたしの場合は、以前は言葉がわからなくて、怖かったが、他の人はどう思っているかわからない。
 - ここに来たら何があるのか分からないのだと思う。ランチ以外にも何かあるといいのだが。
 - 以前ズンバダンスをしたことがあり、楽しい時間になった。もう一度やろうと声をかけると来てくれると思う。

外国人に参加してもらうにはどうしたらいいか

- もう一回ランチ会をやるとしたら、わたしたちが参加する外国人に対して事前に質問をすればいいのではないかな。困っていること、知りたいことはそれぞれ異なる。
- 事前に質問すると「(困っているのに)困っていることはない」という回答が返ってくることも考えられるので、困りごとをうまく引き出すことが必要になってくる。
- もう一度土曜日のランチ会をやるのはむずかしいとなると、お茶会はどうか。
- ランチ会の成功とはどういう状態のことなのだろうか？
- 外国人の参加者が来たいと思って実際に参加してもらって、日本人は保護者としてではなく、対等な立場で人間関係を築くことにあると思う。今回は外国人が来ていないので、今日の段階だと外国人が参加してくれたら成功なのではないかな。どうしたら外国人に来てくれるのだろうか。
- 今日はたくさん来ると思っていた。呼ぼうと思えばたくさん来てくれる。

- 他の方法で人を呼ぶことはできないものか。Aさんルート、Bさんルート・・・という形でしか人を呼ぶことができない。例えばPTAのお母さんとか誰でもできるように(Aさんなど特定の人を経由することなく)間口を広げられないか。
- 次回来てくれる外国人にどうしたら来るのか聞いてみたらどうだろうか。どういうくみがあれば来てくれるのか。
- まずはそこに自分の知り合いがいるのか、どうか。ポイントとしては、どうすれば来てくれるのか、どうすれば情報を届けられるのか、の2つあると思う。
- 誰から情報を得たか。来てくれた外国人参加者が次回誰かを一緒に連れて来てくれたら、一つの成功と言えるのかもしれない。
- 大人と子どもみたいな関係性だとよくないのかもしれないが、来日して間もない期間だと、ガイドしてくれるような存在が必要になる。ある程度、自立して一人でやれるようになればいいのだが、そこまでの間をフォローできる人をつくることができるといい。
- フィリピンの人にとっては日本人と交流する機会がない。ご主人と一緒に食事する方がいいのだとすれば、家族で参加できるように声をかければいい。
- フリートーク形式だと話す人が限られてしまう。グループをつくって、コミュニケーションのしかけをつくっておけるといい。食べる時間を決めて、ゲームをしながら人をシャッフルすればいいのでは。場の雰囲気や和やかになれば、いろんな人と話がしやすくなる。

ランチ会の目的とは何か

- ランチ会の本来の目的は何なのだろうか。来てもらって、友だちをつくることだけでなく、情報を提供することが目的でもあると思うのでゲームもいいと思うが、ゲームで終わるのは趣旨が違うと思う。
- フリートーク形式だと同じ人としか話さずに終わってしまうので、いろんな人と話すためにはゲーム的な要素があった方がいい。
- 招く側の日本人が意識的に話しかけ、シャッフルするやり方ではダメなのだろうか。ゲームをすることではなく、招く側の対応を考える方法はできないものか。全員でなくていいので、参加者のコミュニケーションが活発になるような役割をする人がいたらいいのでは。わたしは今日のランチ会では外国人の参加者と話すことはできなかったのですが、招く側のわれわれも変わっていく必要がある。
- 最終的な目的は、困っていることを聞き出して情報を提供することなのか。
- ランチ会をきっかけにして知り合い、継続的にコミュニケーションすることができる関係

を築く中で、困ったことがあればアドバイスなり、情報提供なりをしていくことなのではないか。ランチ会の場で困っている人に情報を手渡すというわけではなく、まずは外国人ワールドの中から出てきてもらって日本人の知り合いをつくってもらいたいことだと思っている。企画側が仕掛けをつくり込んでしまうと、わたしたちが専門集団みたいになってしまう。顔見知りになったときに、いざという時に助けてもらえる関係になればいいのではないか。

- やはり、そうした趣旨を参加者に伝えないといけない。今回のランチ会では参加者に事前にうまく伝えられていなかった。
- その点は今回のランチ会の気づきなのだと思う。参加者に外国人はこんなところで困っているのかと気づいてもらえるように、日常生活のレベルまで落とし込めるといい。
- どのように対応するのか、英語にするのか、そういう経験値を積んでいけるといい。マニュアルではないが、そうして私たちだけでなく他の人にも広げていくために交流の仕方を形にして伝えていけるといい。
- 日本語教室など他の場所でもできるようになるといい。

この会議の結論

- 残りの会議回数も限られており、結論に到達する時間もない。そこで、外国人に興味をもっている人にターゲットをしばっていったらどうか。日本人でも友人関係になるのはたいへん。多文化共生の第一歩としては、まずは外国人のこと、相手のことを理解しないといけない。中国人の中学生を支援していたことがあるが、お互いに理解を深めることで信頼関係を築くことができた。日本語教室のボランティアや多言語市民サポーターも何十人という。底辺を広げることも大事だが、われわれが2年でできるものもない。すでに関心を持っている日本人を対象にすれば良いのではないか。
- 日本語教室のボランティアなど、既存の人材をエンパワメントすれば情報発信する側になってくれると思う。今ある人的資源を活用するということ。
- ランチ会に来てくださるようにお声がけするのも、まずは志のある人を対象に始めていったらどうか。底辺を広げる取り組みをしている場合ではないと思う。
- 外国人や多文化共生についての知識や関心がゼロの人を残り3か月で理解者にしよう、みたいな結論は考えていないわけで、3か月の間にできることをしよう、という考え方はしない方がいいと思う。
- 日本語の講座を受けた方に聞いたことがあるのだが、大和市に暮らす外国人の状況を初めて聞いて関心を持つ方もいた。情報がある程度持っている人の方がいいかと思

った。

- そうした人々に対して、将来的にはもっとこんなことができるんだということをわたしたちが提示できるのではないか。
- 外国人との交流会は、すでに日本語教室の中でやっているのではないか。
- この会議でできることは、日本人の参加者に理解者になってもらうと言うより、外国人ワールドで生きている外国人が日本人とのつながりをつくることのできるきっかけづくり。一つの形として今回ランチ会を試行した。その他のパッケージとしては、お酒を交えた交流会、前回の会議では料理づくり(カレーライスづくり)など共同作業がいいのでは、といった話が出た。
- この会議でできることは、外国人ワールドから人を呼び込める人をつくることなのだろうか。
- 最終的には外国人の抱える課題を解決したいのだから、まずは外国人が来てくれる方法を話し合うことは間違っていないと思う。
- 先ほどの話では、特定の人としか信頼関係がないので、その人の代わりに私たちが外国人ワールドにいる外国人を呼び出せるのだろうか。
- 例えば、次回の会議でフィリピンの人が100人来たとすると、その参加者と私たちがいかにパイプをつくれるかにかかってくるとおもいます。今までは〇〇さんしか信頼できなかったけど、他にも相談できそうな人がいると分かってくれるだけで大きな前進だと思う。その先には、自分の意思で行こうかなと思ってくれたりして変わってくるのではないかと。最初は〇〇さんという信頼できる人がいないとダメだけれども、続けていくことで変わっていくのでは。
- 今回のランチ会ではテーマがなかったという感想があった。
- 以前、介護予防の講座をやるという話があったが、介護だと人が来ないのでズンバダンスをやれば来てくれる人が多いし、みんなが喜んでくれるという話をした。テーマはあってもなくても、ズンバダンスのようなお楽しみ要素が大事なのではないか。
- 日本人と交流したい外国人はたくさんいる。次回やるとしても、継続的に来てくれるように私たちが何か持ち得たのだろうか。
- まず分かったのは、もっと積極的に話しかけること。その他にゲームをすれば、アイスブレイクとして効果的。
- テーマというより、目的がはっきりしていなかった。ランチ会の場で情報提供を行うというより、外国人が情報を受け取ることのできるようなつながりをつくることのできたらいい。

- この会議の結論はどの辺にあるのか。
- 例えば、ランチ会といった私たちの取り組みを他の場所でも広げていくことができるといいのではないか。

つながりをつくる場

- このまま次回もランチ会をやるとなると、同じような失敗を繰り返してしまう気がするがどうだろうか。
- わたしたちが日本語教室にお邪魔して、外国人が困っていること、情報提供のことに聞いてみるのはどうか。
- 日本語教室に来ている外国人は、外国人ワールド以外の日本人とのつながりをすでに持っていて、そこから情報を受け取れる可能性があるのだと思う。日本人とのつながりを持たない人に継続的に情報を伝えることができるしくみをつくることができればいい。
- 日本という外国でサバイバルしていくためには、同国人同士のつながりも重要。その上で日本人ともつながりを持つことができるといい。ただし、外国人ワールドの中だけで生きていくのは問題があるので、ちょっと他にも行ってみようと思わせることが必要なのかもしれない。
- 今回試してみてもわかったことがあると思うので、ランチ会ならランチ会をやるのもいいが、来月のランチ会だと日程的にちょっと厳しいのではないか。また、素晴らしいランチ会をやるのがこの会議の成果となるわけではない。1回試行するなら、その後反省できるだけの時間も必要になる。
- ランチ会をやることで参加する外国人が日本人とのつながりをつくることができるというわけなので、次回やるならその辺はしっかりと整理して実施したい。
- 時間をずらして先に会議を行い、その後にお茶会をやることもできる。
- ここは駅から遠いし、行きづらい。他市のラウンジは駅近、きれい、入りやすい。外国人にしても、日本人にしても、国際化協会を知らない人はたくさんいる。
- 例えば、シリウスの会議室でやってみるのはどうか。イオンモールとか。
- オープンスペースでインターナショナルオープンカフェのようなものはどうか。日本人も外国人もある程度サクラ(主催者が用意するお客さん)が必要なのかもしれないが。
- そこでゲームをして5人ぐらいで1グループになり、自己紹介とかするといいのではないか。
- ただ、オープンなスペースで自己紹介ゲームをやっても、そこで知り合った人との関係

性が持続する可能性は低いのではないかと。国際交流フェスティバルで似たような企画もやっているが、通りすがりの人を対象にするのだと厳しいので少なくとも参加者を囲い込む必要があるように思う。

- 市役所ロビーよりはシリウスやイオンモールがいいのかもしれないが、そのような大がかりなものができるのかどうか。
- 今日のランチ会もできたのでできるのかもしれないが、どういう目的で開催するのか。成功するかもしれないが、ただやりました、という結果だけで終わってしまう気がする。外国人と日本人とのコミュニケーションなのか、困ったことを聞き出すのか、外国人ワールドにいる人と日本人とのパイプをつくることなのか。ゲームもいいが、ゲームをやるだけで終わると意味がない。ゲームの後、何をするか。
- やはり、自分が困っていることを一回会っただけの人に話すことはない。十回会ったときに話すのかもしれないが、そこまでの関係性をどうやって維持していくのか、という話なのかもしれない。その場で盛り上がるというきっかけは必要なのかもしれないが。
- あなたが一番困っていることは何ですか、というアンケートはどうか。
- 困っていることを聞く行為そのものが課題の解決につながるのならいいのかもしれないが、これ以上課題を聞かなくてもいいのではないかと。
- では、どうしたらいいのか。解決策をいくつか提示して選んでもらうのか。

情報を伝えるための人的資源をつくる

- 大和市には困っている外国人のための相談窓口はあるのか。
- 市役所の2階にある国際・男女共同参画課が所管しているが、困っている外国人に対しては多言語通訳窓口での通訳員による対応になるかと思う。
- 外国ルーツの子どもの場合、困ったときに相談できる行政窓口が分からない。
- 窓口はあることはあるのだが、外国人に知られていない。例えば、そうした相談できる窓口についての情報を伝えることのできるパイプをつくるという解決策をランチ会という方法で実行できるのだと思う。
- 窓口の情報は国際化協会の外国語版情報紙を見たり、ホームページを見たりすれば分かるはずだが、そこまでたどり着けない外国人も多い。この会議で情報を伝えるための人的資源をつくらうとしている。外国人に情報を届けるために、知らない日本人に知ってもらうために、どういう取り組みができるのか。
- 例えばインターナショナルカフェのような場で来てくれた外国人に国際化協会のパンフレットを配るのはどうか。

- 今まで国際化協会を知らなかった外国人にとって、国際化協会があると知ることができるのなら意味があると思う。
- パンフレットに載っている地図を見ても国際化協会の場所が分からないので、そもそもアクセスできない外国人も多い。日本語が分からないので電話で問い合わせることもできない。となれば、やはり同国人を頼ることになる。
- その場合に同国人だけでなく、周りにいる人がサポートできるようになるにはどうしたらいいか。
- 大丈夫だよ、といくら言っても自信がないようだ。英語など通訳窓口もあるのに国際化協会ではなく、同国人にまずは相談にくる。今日の参加者に至っては国際化協会スタッフと面識があるにも関わらず、一人で入ってくることもない。
- 翻訳の場合、依頼に対する返答の結果がはっきりしているが、困っていることは漠然とした相談になるので、国際化協会よりも同国人の頼りになる人に相談するのではないか。
- やはり人間関係、信頼関係が重要になる。
- となると、オープンカフェではなく、橋渡しができる人と外国人とのつながりをつくることでないとやる意味がない。
- 例えば外国人が相談したいことを国際化協会に電話したら、ほぼ求めている回答を得ることができるのか。
- 日本語を学習したいという相談はよくあるが、そういった相談にはほぼ対応できている。しかし、心の悩みなどの相談を寄せられても、国際化協会では専門スキルを持っていないので他に相談できるところを紹介することになる。メンタルの他にも通訳窓口にはあらゆる相談が寄せられている現状にある。

解決に導くために必要なこと

- 通訳窓口のように外国人の母語ができる人しか解決できないときもあるが、ちょっとした困りごとであれば日本語を使ってお役に立てるときもあるわけで、それをどうやって確立するか。
- やはり、外国人との共通言語ができる人がお互いに信頼関係を築ける場を設定するしかないのでは。
- 日本語でもいいのだと思う。今日のランチ会には日本語ができないから来なかった外国人もいたわけだが、その人も日本語ゼロではないし、下手な日本語でも十分コミュニケーションできることを実感すればプラスだと思う。

- 日本人も経験を積みだせるようになるということかもしれない。外国人とたくさん触れ合ってきたからできるのか。
- 地理ネタはウケるみたい。例えば、ドミニカ国とドミニカ共和国が違うことを知ってれば、親身になって話してくれるが、知らなかったりするとダメ。その他にもその国のあいさつ言葉くらいは覚えておくとか。最初は恥ずかしいが慣れてくると平気になる。
- 興味を持ってますよ、ということが相手に伝われば安心につながる。

(報告書に向けて)

この会議の任期は 2018年1月までとなっており、任期中に報告書を取りまとめるため、事務局から報告書の素案を次回会議で提示する。その内容について委員のみなさんに意見を出していただく。また、過去の提言に関する進捗状況について市役所の各課に回答をいただき、報告する。その他にも今後ランチ会なり、お茶会なりの試みを行うかについて次回の会議で検討していく。

3 その他

次回は 10月14日(土)14:00～同じ市役所分庁舎2階会議室で会議を行う。

以上